

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670105206
法人名	社会福祉法人 恵心会
事業所名	清谿園グループホームどんぐり
訪問調査日	平成20年3月3日
評価確定日	平成20年6月6日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月3日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第4670105206号		
法人名	社会福祉法人 恵心会		
事業所名	清谿園グループホームどんぐり		
所在地	鹿児島市中山町字八反田5217番地 (電話)099-263-1081		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年3月3日	評価確定日	平成20年6月6日

【情報提供票より】(20年1月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年3月31日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤17人, 非常勤0人, 常勤換算15人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,560円	その他の経費(月額)	1日400円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200円	昼食 400円
	夕食	400円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名	
要介護1	4名	要介護2	5名			
要介護3	7名	要介護4	2名			
要介護5	名	要支援2				
年齢	平均	85歳	最低	78歳	最高	96歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ほりのうち内科、わきもと歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは谷山の昔からの集落の一角に開設され、地域のなか生活する交流の場といった雰囲気がある。地域の災害時の避難場所にも指定されている。特別養護老人ホームや居宅支援事業など介護サービスを多角的に展開する社会福祉法人を母体として、総合的な高齢者ケア事業の一環としてのグループホームである。職員体制は全て常勤職員で、安定した雇用関係のなかで気配り目配りの行き届いた支援がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	「入居者がお金を持つことの大切さを理解し、本人の力量に応じた支援をする」については、家族と相談し取り組みがなされている。ホーム機能の地域への還元についても、地域との密接な交流の中で実施されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	スタッフ研修を行い、評価の意義を理解して、管理者・職員それぞれの立場で自己評価をして全体の協議もして結果をまとめた。前年度の外部評価結果についても協議し、改善するなど自己評価・外部評価を活かしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)	運営推進会議は開催回数を年々増やし充実している。町内会長などの意見により、地域との連携も深まり地域の行事に参加したりして協力体制作りが進められている。また、家族の意見も取り上げ、サービス向上に取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)	年1回家族会を開催し、意見を聞く他に、来訪時や電話連絡時など機会を捉えて家族の意見・要望を聞き、家族から「来室者のメッセージ帳を設けて欲しい」との要望など迅速に対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	町内会に参加し、清掃活動や地域の行事にも参加し交流を図っている。また、地域のボランティアの交流や来訪者も受け入れている。また、散歩の途中でも地域の方と声を交わし、花などもらうこともある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の一つに「地域の方とのふれあいを大切に、ともに暮らしていきましょう。」と掲げて、地域との連携に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼時に理念を唱和し、お互いに確認し介護に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加し、清掃活動や地域の行事にも参加し交流を図っている。また、地域のボランティアの交流や来訪者も受け入れている。また、散歩の途中でも地域の方と声を交わし、花などももらうこともある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ研修を行い、評価の意義を理解し、管理者・職員それぞれの立場で自己評価を行い、全体の協議で結果をまとめた。前年度の外部評価結果についても協議し、改善するなど自己評価・外部評価を活かしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催回数を年々増やし充実している。町内会長などの意見により、地域との連携も深まり地域の行事に参加したりして協力体制作りが進められている。また、家族の意見も取り上げ、サービス向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連携により、ホームに結核予防検診車の派遣や、介護保険や生活保護などの助言を受けサービスの質の向上に取り組んでいる。また、地域包括支援センターとの連携もとり、支援に役立っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	スタッフが記録した通信報告書を写真とあわせて毎月送付し、家族からも本人のことが具体的にしっかりと把握できると大変喜ばれている。金銭管理については、出納帳のコピーを送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族会を開催し、意見を聞く他に、来訪時や電話連絡時など機会を捉えて家族の意見・要望を聞き、家族から「来室者のメッセージ帳を設けて欲しい」との要望など迅速に対応している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動による利用者のダメージを防ぐために、職員は全員常勤者で、法人本部にも人事異動は最小限にするように要望している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年次研修計画も立ててあり、計画的に研修派遣や、内部研修をしている。研修報告書を作成し、伝達研修もしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地域グループホーム研修会に所属し、研修の折に、管理者・職員の交流をしている。また、近くのグループホームとも交流しお互いに学びあい、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者があった場合は、グループホーム職員が、家庭・病院などの施設に出向き、顔なじみになるとともに、見学参加や、他のグループホームも見て納得したうえで、サービス利用にはいるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	四季折々の風習、伝統的な郷土料理の調理方法、生活習慣など生活の知恵を利用者から学んだり、スタッフが困りごとの時などには利用者から何気ない慰めを受けるなど相互に支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に寄り添う支援の中で、本人の動きやしぐさから思いや意向を察知し意向に沿った支援をするようにしている。日常の支援の場面や、ケアプラン変更時に意見や意向を聞いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常介護のなかから、本人の意向を汲み取り、家族面会時に家族と話し合い、スタッフのカンファレンスを通して介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとに介護計画の見直しを行うとともに、状況の変化時には評価の見直しをするなど必要なプロセスを経て、状況に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や通院の支援や、自宅訪問支援、終末期の家族支援など持てる機能を活かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と話し合い、本人や家族の希望に即したかかりつけ医への支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで看取りの経験を経て、管理者・スタッフの間に看取りについての方向性はできてきている。		看取りの方針を明文化し、利用者や家族・職員・主治医の間で共有できるようになることを期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入職時に守秘義務の誓約をしている。個人情報保護のために、記録等の保管管理にも配慮している。排泄・食事・入浴等の個々のサービス場面で、プライバシーや誇りを傷つけないようさりげなく支援をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人の希望や体調により、状況に即して起床・入浴・食事・就寝などその人のペースで支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から、好みや希望を聞き献立を作ったり、下拵えや配膳などそれぞれができることを行い、職員と一緒に食事を楽しめるように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は、希望にあわせていつでも入浴できるようにしている。また、蓬や橙などを使って薬草湯にしたり、入浴剤を工夫して使うなど入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意の加工食品(漬物や保存食など)作りなどの楽しみや、地域の伝統行事の話など生活のなかからにじみ出る話を聞かせてもらったり、地域の催しや花見などに出かけるなど楽しみごとの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候がよければ、ほとんど毎日散歩をしたり、桜島が見えるスポットに出かけたり、近くのグループホームまで散歩・交流に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を十分理解して、日中は鍵をかけていない。居室に自分で鍵をかける人はいるが、ホームの方針としては鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火・避難の自主訓練を年3回実施し、夜間を想定した訓練も実施している。消防署の協力での訓練は年1回実施し、近隣との協力体制もできている。緊急時の備蓄は取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のアドバイスのもとで、栄養バランスのある食事を提供し、水分は1300～1500CCの摂取を目途にしている。健康状態や身体状況にも配慮した細やかな支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には信仰の対象も安置され、季節感のある飾り付けがなされ、トイレ・浴室をはじめ全体に清潔感のある居心地のよい生活空間となっている。光の加減や音量などにも配慮が見られ、生活臭など不快な臭いも無い。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ち込んだなじみの小物入れなどや、子ども・孫からの贈り物・写真や仏壇などを置くなどして居心地よく安心して暮らせるような居室となっている。		